

【滞日十年】

今からちょうど90年前の昭和11（1936）年2月26日、陸軍の青年将校らが政府の要人などを襲撃するというクーデター、「二・二六事件」が起きました。早朝5時頃、東京四谷の斎藤私邸も約150名の兵に取り囲まれ、4名の青年将校に襲撃され命を落としました。30年ぶりの大雪となったなかでの出来事でした。

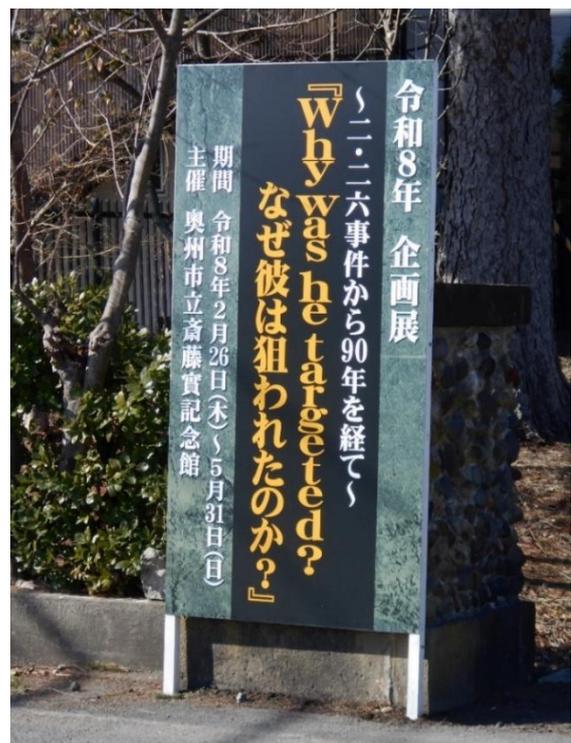
今月ご紹介する推しの“イッピン”は、ジョセフ・C・グルー著「滞日十年」です。総理大臣時代より親交のあった駐日米大使ジョセフ・C・グルー。襲撃前夜、斎藤夫妻はグルー大使の招待により内大臣就任を祝う晩餐会に出席。この晩餐会には36人の重臣が大使館に招かれました。食事後はトーキーの上映が行われ、楽しく見入り気がつくと午後11時。遅くとも10時には晩餐会から帰宅する夫妻にとって深夜まで長居することは珍しいことでした。その翌日に勃発した凶行。「一九三六年二月二十七日」との見出しでグルー大使が弔問に訪れた際の心情が記されています。

この「滞日十年」を展示する令和8年企画展「～二・二六事件から90年を経て～『Why was he targeted? なぜ彼は狙われたのか?』」を2階北側展示場にて本日より開催中です。決起部隊を率いた陸軍の青年将校たちが掲げた「昭和維新」とはどのようなものだったのか。明治・大正・昭和と歴代の天皇に仕え、内大臣として昭和天皇の側近であった實が何故真逆の奸臣^{かんしん}として狙われなければならなかったのか。展示の中に手がかりを見つけ、自分なりの答えを見出してもらい、そのような目線でご覧いただける内容となっております。企画展は5月31日（日）まで開催。また、3月14日（土）午後1時30分より当館学芸調査員による企画展解説会も開催いたします。

90年という節目の年にあたるこの機会に、ぜひご来館ください。



ジョセフ・C・グルー著
「滞日十年」(上・下)
(石川欣一訳、毎日新聞社、1948年)



記念館駐車場そばに設置した看板